

第4章

水管理上の課題

4.1 住民説明会（パブリック・コンサルテーション・ミーティング：PCM）

インセプション・レポートにおいて、第1次、第2次現地調査終了時の2回、住民説明会を予定していたが、その後、インセプション・レポート説明時のステアリング・コミッティー・ミーティングにおいて、プレPCMをムシ川流域の上・中・下流域の各3ヶ所で開催することが合意された。

各パブリック・コンサルテーションでの主題は下記のとおりである。

- Pre-PCM: 水管理に関する意見の集約と調査初期段階でのムシ川流域における環境問題の認識に関する基本情報の収集。
- PCM (1): プロGRESS・レポート取りまとめ時におけるムシ川流域総合水管理計画課題の明確化
- PCM (2): 地域住民、ステーク・ホルダー等へのムシ川流域水管理計画の説明と事業実施における合意形成。

4.1.1 プレ・パブリック・コンサルテーション・ミーティング

プレPCMは第1次現地調査期間中の9月に、3回開催された。各プレPCMの概要を以下に示す。このプレPCMは、コーディネーティング/スーパーバイジング・チーム（管理・調整チーム）、カウンターパート・チームと本調査団の合同会議によって協議され、準備が行われた。

表 4.1.1 プレPCMの概要

	下流域	中流域	上流域
開催日	2002年9月16日	2002年9月20日	2002年9月18日
場所	スカユ	ムアラエニム	ルブックリンガウ
関係地域/地区	Palembang, Banyuasin, Musi Banyuasin (MUBA), Ogan Komering Ilir (OKI)	Muaraenim, Prabumulih, Ogan Komering Ulu (OKU)	Musi Rawas (MURA), Lubuklinggau, Lahat, Pagaralam
参加機関	- Representatives of social groups - Local government officials of related services		
参加者数（人）	42	33	48

プレPCMは、各地域・地区ごとのグループ討論と、全参加者による全体討論で構成された。問題の多くは参加者のグループ討論で明らかにされ、全体討論において課題の抽出と質疑応答が行われた。3回のプレPCMにおける討議結果の概要は以下のとおりである。

- 参加者によって抽出された課題は、異なるセクターに属するが、相互に関連することが整理された。例えば、堆砂問題は洪水のみならず水利用に関しても影響する。よって、抽出された課題は包括的に解決されるべきである。

- 問題の結果は、しばしば別の問題の原因となる。課題は時間の経過とともに連鎖的に増加する。従って、問題は適時解決されるべきである。
- 3回のプレPCMにおいて、飲料水・灌漑用水の不足、堆砂、水質悪化問題といった共通の課題が抽出された。よって、効率的な問題解決へ取組みのために、関係地方自治体の連携が必要となってくる。
- 地方自治体計画部局と水利組合の能力開発に関する課題も抽出された。能力開発の必要性は、マスター・プラン作成時に十分に考慮されるべきである。

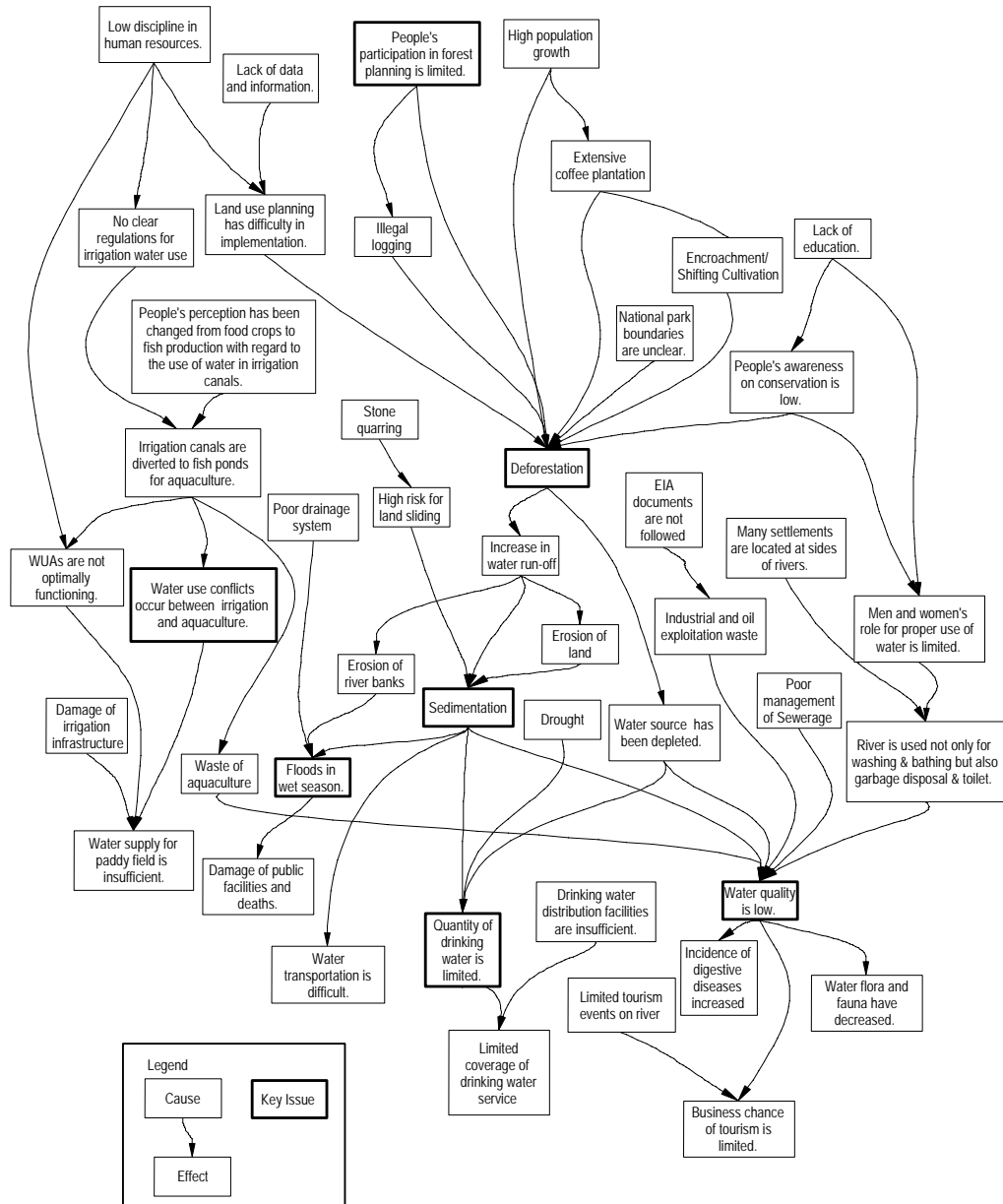


図 4.1.1 プレPCM結果の要約

4.1.2 パブリック・コンサルテーション(1)の結果

パブリック・コンサルテーション(1)の概要は下記のとおりである。

表 4.1.2 パブリック・コンサルテーション(1)の概要

日時	2002年11月25日(月)		
場所	パレンバン (南スマトラ州Cipta Karya会議室)		
関係地域/地区	上流域	中流域	下流域
	Musirawas (MURA), Lubuklinggau, Lahat, Pagaralam	Muaraenim, Prabumulih, Ogan Komering Ulu (OKU)	Palembang, Banyuasin, Musi Banyuasin (MUBA), Ogan Komering Ilir (OKI)
目的	<ul style="list-style-type: none"> - Confirmation of issues on water management which have been presented in the Pre-PCMs - ステークホルダーの定義 		
招待者	<ul style="list-style-type: none"> - Expected clientele (for each main issue) - Local government officials of related services 		
参加者数(人)	78		

主な結果には次のとおりである。中流域での問題は、飲料水の不足、河川の汚染、貧弱な排水システム、米自給の未達成、川が沐浴場、洗濯場、便所として利用されていることである。上流域での問題は、水田と養魚池との間の水利用に関する紛争である。水利用に関する州の条例が提案され、州政府による水利用と伐採に関しての基準の策定が進行中である。下流域での問題は、浸食、工場廃水、飲料水の不足と質の悪さ、雨季の洪水である。グループ間での討議を経て、種々の問題が上・中、下流域の全てにおいて関連づけされた。それは、再植林、沐浴場、洗濯場、便所という観点からの河川利用、質と量に関する飲料水の対策、河川汚濁の削減と防止、汚水処理の改善と排水路の改修などである。

4.1.3 パブリック・コンサルテーション(2)の結果

パブリック・コンサルテーション(2)の概要は下記のとおりである。

表 4.1.3 パブリック・コンサルテーション(2)の概要

日時	2003年2月25日(火)
場所	パレンバン (南スマトラ州Cipta Karya会議室)
目的	<ul style="list-style-type: none"> - 提案されたムシ川流域水管理計画についての意見収集 - 本調査において提案された水管理計画への積極的な協力の要請
参加者数(人)	98

パブリック・コンサルテーション(2)は全体討論とグループ討論で構成された。詳細は以下のとおりである。全体討論においては、優先プログラムと実施計画を含むマスタープラン(案)の説明を行い、そして討論を行った。グループ討論では、4つのグループで、水利用、環境、洪水そして組織制度について、「代替案分析」と呼ばれる手法により討論を行った。

パブリック・コンサルテーション(2)の結果の概要は下記のとおりである。

- 参加者数はパブリック・コンサルテーション(1)での政府関係者が78名、非政府関係者が13名から、パブリック・コンサルテーション(2)では政府関係者が98名、非政府関係者が29名と増加した。これは、州水資源サービスのスタッフがパブリック・コンサルテーション(2)の目的とその重要性を説明した招待状を直接対象者へ送付したためである。
- 直接参加型のアプローチが具体的な課題でなく「マスタープラン」や「管理」のような抽象的な問題の意見を求めることに対して効率的であるかどうか、あるいは「建設プロジェクト」のように彼らに直接関連する問題に効率的であるかの疑問は依然としてある。パブリック・コンサルテーション(2)ではより活発な議論を行うために、マスタープランについてではなく、JICA調査団によって提案された優先プログラムを基により具体的な問題について議論することを求められた。これは、「彼らに関係している」と認められていない問題を論じることは参加者らにとって困難であったからであると思われる。
- 一方、第二の目的であるステーク・ホルダー間の相互理解を深め「本調査において提案された水管理についての積極的な協力の促進」を目的に、種々の地域からの参加者が共に同じ問題を論じることは効果的である。しかしながら、そのことは利害関係を共にするグループでの議論でのみ適用される。関係者が、論理的なフレームワークとプロジェクト・サイクル・マネージメントによって必要とされるように、関係者自身によるプログラム策定が望ましいと思われる。

4.2 水管理にかかる課題

上述の結果より水管理に関する問題は下記のように定義される。

- (1) 水利用：水不足、将来の水需給における供給不足、支川間の水の不均衡、分野間の競合、堆砂による舟運障害。
- (2) 環境：都市と農村における水質悪化、流域の荒廃、感潮湿地の入植地における厳しい生活環境。
- (3) 洪水：河川流況の悪化（極端な渇水）、河岸浸食・堆砂、フラッシュ洪水、都市域での内水湛水。
- (4) 制度：不適格な情報頒布、法執行にかかる規則類の整備遅れ、人的資源における能力不足、組織間の協調の不備。